

高等学校芸術科美術 「映像メディア表現」の題材開発

学籍番号 (209348)

氏 名 (井上 篤)

主指導教員 (佐藤 賢司)

1. 研究の動機と目的

令和4年度より、平成30年告知の高等学校学習指導要領（以下、新学習指導要領）が年次進行で適用される。筆者は、自身が抱える教科指導の疑問や課題を解決するには、新学習指導要領を深く研究せねばならないと考えた。そこで、本研究では、新学習指導要領の研究を通して、その改訂のポイントや基本的な考え方といった趣旨を的確に理解するとともに、教科・科目の指導に求められる本質を読み解き、それらが体現された「映像メディア表現」の題材開発を行うことを主たる目的とした。

2. 学習指導要領の改訂のポイント

新学習指導要領では、学習指導要領が教職員だけの使用に限らず、家庭及び地域の関係者に幅広く共有され、活用される「学びの地図」として機能するよう、その枠組みが改善された。具体的には、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、全ての教科を通して育成すべき資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。芸術科においては、教科の目標の整理に加え、表現と鑑賞の学びの基盤となる〔共通事項〕が新設された。

3. 「映像メディア表現」領域の変遷とその内容

芸術科の学習指導要領に「映像メディア表現」領域が設けられたのは、平成11年3月29日に改訂された学習指導要領においてである。「映像メディア表現」が新設された背景には「進展する情報社会に主体的かつ積極的に参加していくためのビジュアル・コミュニケーション能力の育成」を目指すという趣旨があった。その後、学習指導要領は1度改訂され、新学習指導要領では、「A 表現」の指導事項が従前の4項目から2項目となり、「発想や構想」に関する事項と「創造的な技能」に関する事項に整理された。

4. 現任校のICT環境と美術 I 選択生のICT活用の実態

現任校では、平成30年度末を境に、ICT環境の整備事業が進められている。ICT教育機器の充実に伴い、本年（令和3年度）5月からは、オンライン学習システムの一環としてGoog

le Classroomが導入された。今後はICT活用の促進とともに、ICTを活用できる生徒の育成を前提とした教育の推進が求められる。美術 I 選択生のICT活用の実態としては、質問紙調査を通して、9割近くの生徒が中学校美術の授業において、コンピュータを利用した経験がないということが判明した。また、コンピュータの操作に関しては、「映像メディア表現」との関わりが深い操作において、全体の3割程度の生徒が教師の支援を要する状態にあるということが明らかになった。

5. 題材開発の背景とポイント

これまでの筆者の題材開発では、開発の動機や過程において、生徒の興味・関心をその時々々の教育課題と関連させて分析したり、現任校の課題を俯瞰的に捉えたりするなどの意識が欠けていた。そのため、本研究では、現任校及び我が国のICT活用の実態に配慮するとともに、生徒の興味・関心に応じた題材の開発を心がけた。また、「知識の理解を更に高め、確かな学力を育成すること」を目標に、「育成を目指す資質・能力の明確化」と「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」に努めることを重視した。

6. 題材の詳細

現任校の ICT 環境の改善状況や昨今の中高校生の興味・関心、さらには今後の教育の情報化の推進を考慮した結果、本研究では、「ゲームとアート ～造形的な見方や考え方を働かせて、ゲーム開発における問題を解決しよう～」と題した題材を開発した。題材は、美術 I 「A 表現 (3) 映像メディア表現, [共通事項]」及び「B 鑑賞 (1) 鑑賞ア (ウ), [共通事項]」で構成した。また、主題の生成は、「ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想」のうち、「感じ取ったことや考えたことなど」に設定した。

7. 実践と考察

授業実践では、授業評価アンケートやふりかえりシートを用いた調査活動を行い、生徒の学習状況及び学習評価に基づく指導の改善(指導と評価の一体化)に取り組んだ。学習活動では、対話的・協働的な学習の機会や場を随所に設定した。全8回の授業を通して、概ね全ての生徒の中で3つの資質・能力が向上した。また、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、教科固有の見方・考え方を生活の随所に生かそうとする姿勢が確認された。

8. 研究の成果と今後の課題

研究を通して、新学習指導要領の趣旨や改訂のポイントを的確に具現化した「映像メディア表現」の題材を開発することができた。今後の課題としては、2つのことが定まった。1つは、開発した題材を教科等横断的な視点に立った題材として令和4年度のカリキュラムに導入するために、他教科との連携に努めるという課題である。そして、もう1つは、今後の研究の方向性として、カリキュラム・マネジメントにおける教科等横断的な視点に立った取り組みの効果や価値の検証を目的とした研究を行っていくということである。